

# 市議会だより

第 99 号  
平成28年12月  
定例議会

発行日／平成29年1月18日 発行／岩手県陸前高田市議会 編集／議会広聴広報特別委員会



一般質問……………	2～9 ページ
復興対策特別委員会……………	8～9
議案の審議・結果……………	10
請願等審査・発議……………	11
議会と語る会……………	12～13
復興のうごき・議会のうごき……………	14



平成 29 年成人式

## 新年を迎えて

陸前高田市議会議長

伊藤 明彦

市民の皆様には謹んで新年のごあいさつを申し上げますとともに、日頃より市議会活動に対しましてご理解とご協力をいただき、議会を代表して厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は、東日本大震災からの復興に向けて、高台への住宅建設が進むとともに災害公営住宅の建設にもめどが立ってきました。また、中心市街地には商業施設や市立図書館の建設も始まり、新しいまちの姿がようやく目に見えてきました。

今年も、さらに復興が実感できるものと思われ、市民の皆様におかれましては、新年を期待と希望を持ってお迎えのことと存じます。

議会としても、市民の皆様が一日も早く安心した生活を営むことができるよう、復興の諸課題解決に取り組み、その進捗をよくを議会報告会等でお示しするなど、議会活動の一層の活性化と研鑽に努めて参ります。

本年も皆様のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます。年頭のごあいさつといたします。



# 市役所新庁舎、公共交通、観光など 新しいまちづくりや復興事業の課題で論戦

12月5日から7日までの3日間にわたり10人が登壇

登壇順

<p>鵜浦 昌也 (創生会)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 市役所の新庁舎建設について</li> <li>2 かさ上げ盛土工事の進捗状況と今後の課題について</li> <li>3 三陸沿岸道路を生かした交流人口の増加策と産業振興策について</li> </ol>
<p>伊勢 純 (日本共産党)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 国保広田診療所の今後について</li> <li>2 障がいのある人たちと歩むまちづくりについて</li> <li>3 被災者の住宅再建支援制度の活用について</li> </ol>
<p>及川 修一 (新風)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 観光行政について</li> <li>2 陸前高田市が持続するための課題と対応について</li> <li>3 JR東日本との交渉の進捗について</li> </ol>
<p>中野 貴徳</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 公共施設等の維持管理について</li> <li>2 公共交通の考え方について</li> </ol>
<p>大坪 涼子 (日本共産党)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 認知症高齢者の在宅介護支援について</li> <li>2 市内の保育施設入所について</li> <li>3 若者の地元就職と雇用対策について</li> </ol>
<p>菅野 定 (新風)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 高齢者や認知症の方を守るための取組について</li> <li>2 福祉施設などの利用者の安全確保の考え方について</li> </ol>
<p>大坂 俊 (翔英会)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 陸前高田市の財政状況の現状と今後の在り方について</li> <li>2 陸前高田市の防災計画について</li> <li>3 (仮称) 一本松記念館・陸前高田市立博物館について</li> </ol>
<p>福田 利喜 (創生会)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 震災復興計画の進捗状況について</li> <li>2 本市の産業政策について</li> <li>3 応急仮設住宅の集約化及び撤去について</li> </ol>
<p>佐々木 一義 (創生会)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 大震災で学んだ防災減災の智慧をどう生かすかについて</li> <li>2 被災市街地復興土地区画整理事業について</li> <li>3 交流人口について</li> </ol>
<p>藤倉 泰治 (日本共産党)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 大震災の教訓と新しいまちづくりについて</li> <li>2 災害公営住宅の家賃軽減策について</li> <li>3 集落等の飲料水確保及びライフラインについて</li> </ol>



鵜浦昌也  
(創生会)

## 市役所庁舎建設に 向け市民説明会は

**質問** 市役所の新庁舎建設について、市当局は平成25年の市民アンケートを踏まえ、「大震災の浸水区域外で高台を基本」との方針を示していた。今回の案との整合性はどうか。

**答弁** 一部に浸水区域も含まれるが、高田松原の防潮堤整備に加え、市街地をかさ上げすることにより、大震災クラス津波に対する安全性は一定程度確保されているものと認識している。

**質問** 市民を対象とした説明会を開き、広く意見を聞くべきではないか。

**答弁** 市内の各コミュニティ推進協議会を通じて開催する説明会では、多くの



本設となる市役所の建設場所はここに

市民の声を聞くことが難しいものと考えている。そこで、まずは市民の代表である市議会議員の方々に、それぞれの活動の中でさまざまな声を拾い上げてもらい、その上で議論していただきたい。

市としても、さまざまな市民団体の方々と懇話会的な機会を持ち、できるだけ率直な意見交換を行っていきたい。

## かさ上げ盛土工事 完了時期はいつか

**質問** かさ上げ盛土工事の進捗よく状況はどうか。

**答弁** 高田地区の中心市街地に設ける商業エリア20ヘク

タールの盛土工事はほぼ完了し、平成29年内の完成を目指して現在インフラ整備を進めている。中心市街地以外の67ヘクタールは30年度前半、今泉地区の37ヘクタールは30年度中の完成を目指している。

**質問** 今後の課題は何か。

**答弁** 高田・今泉両地区とも区画整理事業区域内の工事に伴う道路の切り回しや周辺に居住している方々の生活道路の確保、29年春にオープン予定となっている大型ショッピングセンターへのアクセス道路の整備を効率よく進めることと捉えている。

## 三陸道にサービス エリアが必要では

**質問** 多くの観光客に立ち寄りってもらうためにも、国に対し市内の三陸沿岸道路沿いにサービスエリアの設置を要望していく考えは。

**答弁** 市内の観光振興や地域経済の活性化のためには、サービスエリアを設置するのではなく、今後整備する高田松原津波復興祈念公園や道の駅に三陸沿岸道路利用者をいかに誘導するかが重要と考えている。



中野貴徳

## 公共施設等の 維持管理は

**質問** 市が管理する公共施設の維持管理をどのように考えるのか。

**答弁** 老朽化の状況や利用状況、総人口や年代別人口についての今後の見通し、維持管理、更新等に係る中長期的

な経費と、これらに充て可能な財源の見込みなど、国からの策定指針が示されており、本市においても平成28年度中に「市公共施設等総合管理計画」を策定する。

**質問** 今後の維持管理はどのようにしていくのか。

**答弁** 既存施設の老朽化対応のほか、復旧・復興事業により新たに再構築する公共施設等もあるが、「陸前高田市人口ビジョン及びまち・ひと・しごと総合戦略」における人口の将来展望を見据えた、今後の財政負担の軽減、平準化を図るべく、長期的な視点をもって計画的な維持管理を行っていく。

## 今後の公共交通 在り方どう考える

**質問** デマンド交通の課題はどうか。

**答弁** 利用者の希望する目的の地や時間帯とのミスマッチ等がある。

**質問** 高齢ドライバーへの対応策はあるか。

**答弁** 運転免許の返納者に対し、新年度に向けて、福祉タクシーを参考にした支援制度の実施を検討している。



昭和40年代に建設された市営住宅



伊 勢 純  
(日本共産党)

## 広田診療所の役割は

**質問** 広田診療所の歴史的な経緯や役割はどうか。

**答弁** 広田診療所は、昭和11年に広田村の方々の願いを受け、広田村漁協が経営を始めた。震災直後は、近江医師には、医療機器や薬剤などもほとんどない広田小学校保健室で、支援医師とともに献身的な診療や震災前からの訪問診療も行っていただいた。



仮設の国保広田診療所

**質問** 1月以降の診療体制はどうか。

**答弁** 医師から12月末をもって退職届が提出され、市は慰留のため話し合いを行ったが、医師の思いは固いと判断し受理した。

市では、1月以降に医療の空白が生じないように進める。

県立高田病院では、毎週月曜日に医師を広田診療所へ派遣のほか、市が患者を県立病院まで送迎する方向で「広田の日」としてさらに週1日の診療。また、済生会診療所からも週1日の広田診療所へ応援診療、県立大船渡病院も相談に応じると返事をいただいている。

**質問** 広田診療所の再整備はどうか。

**答弁** 設計変更等の必要があり計画が遅れたが生じたが、完成は平成29年6月と見込む。

## 障がいのある人たちと歩むまちづくり

**質問** 公営住宅の今後のグループホーム利用はどうか。

**答弁** 栃ヶ沢復興公営住宅のグループホーム利用は、国の承認待ちで、平成29年1月に入居可能とかがっている。

**質問** 障がいのある人の就労支援の現状はどうか。

**答弁** ふるさと納税のお礼品の梱包作業に週4日で延べ24人が従事。1人はお礼品取扱事業所に職員として採用された。市内の障がい福祉施設では新たに菓子工房を建築し、就労意欲向上の取り組みが進められている。

また、11月には、気仙地区障がい者就職相談会が開催され、75人の求職者と市内外の18企業が参加した。米崎リング、たかたのゆめ等の生産者と連携し、就労する取り組みも行われている。

## 住宅再建支援

さらに活用策を

**質問** 被災者の住宅再建の進捗はどうか。

**答弁** 住宅再建と公営住宅で約66%の世帯が住まいの確保を進めている。

**質問** 支援制度を十分に活用するため、市が特別な働きかけをすべきではないか。

**答弁** 各種補助金の支給や住宅再建の意向など、個別に把握ができる「住宅再建データベース」を構築し、より細やかな支援を進める。



及 川 修 一  
(新 風)

## 観光行政の考え方は

**質問** 市民の森、箱根山に訪れる外国人などは、箱根山をアートな空間と感じている。持続可能な観光拠点とするため、障がいを持つ美術家の作品を展示するような特徴ある場所にしてはどうか。

**答弁** 観光物産協会の公式サイトで「高田旅ナビ」を活用し、各種団体が協議する場を設けている。それぞれのポテンシャルを生かしながら連携した取り組みを進め、方向性を検討していきたい。

**質問** 観光業には、経験と実績のある観光物産協会の役割が大きくなると思うが、新興の組織との連携、すみ分けはどうしていくのか。

**質問** 観光物産協会の公式サイトで「高田旅ナビ」を活用し、各種団体が協議する場を設けている。それぞれのポテンシャルを生かしながら連携した取り組みを進め、方向性を検討していきたい。

## 陸前高田市が単独である意義は

**質問** 本市は自治体合併の道を選択しなかった。大震災の復興のための一十億円以上の予算配分は、合併していれば高田地区ではこれほどの予算にはならないと思うことなど、市の独自性という観点で、一定の意味を持ったと思うが、所感はどうか。

**答弁** 大学や企業との連



インバウンドに人気の気仙大工左官伝承館

携、名古屋市との友好都市をはじめ、ふるさと納税など、国内外からさまざまな応援をいただき、「ノーマライゼーション」という言葉のいらぬまちづくり」にも取り組んでいる。

改めて振り返ると、単独市としての選択は賢明だったと思う。今後も、命を守り、生活となりわいの再建を最優先に、市民が復興を感じられる日まで、共に歩んでいきたい。

## JR東日本との交渉の進捗はよくは

**質問** 県議会において、JR東日本が、BRTバスの一ノ関駅までの乗り入れを考えているとの報道があったが、新幹線とのアクセスは重要と思うがどのような見通しか。

**答弁** JR東日本から、国やバス事業者との協議を始めたばかりとの報告があった。新幹線へのアクセス改善に向け、国や県へ働きかけをし、一ノ関駅へのBRT乗り入れの早期実現に取り組んでいる。



大坪 涼子  
(日本共産党)

## 認知症の家族支援を

**質問** 最近、認知症による行方不明や家族の介護で痛ましい事故もあった。家族の介護について市長の思いはどうか。

**答弁** 認知症は記憶障がいや徘徊等の症状を伴い、介護する家族は日々大変なご苦労をされていると思う。

**質問** 「認知症初期集中支援チーム」の取り組みはどうか。

**答弁** このチームは認知症の疑いや認知症の方へ早期診断・早期対応で支援する。平成28年4月に保健師、看護師、臨床心理士により構築し、支援を始めている。

**質問** 家族の突発的な事情の場合

の相談体制はどうか。

**答弁** 介護事業所のサービス縮小により、緊急時の対応は厳しいが、認知症サポーター等の活用も検討する。

**質問** 本市には在宅重度障がい者及び寝たきり老人等介護手当てと家族介護慰労事業があるが、認知症や介護度が高い場合にも対象を広げ拡充すべきではないか。

**答弁** 認知症の方などを含め実態に即した支援を検討する。

## 希望する

## 保育施設の入所を

**質問** 第一希望で入所でき

ない児童数はどうか。

**答弁** 現在、14世帯17名となっている。

**質問** 高田保育所の入所状況はどうか。

**答弁** 定員101人に84人、幼稚園部門は定員40人に4人となっている。

**質問** 高田保育所の入所が増えれば、希望入所が広がるが、29年度の見通しはどうか。

**答弁** 現時点で見通しを立てるのは難しい。

**質問** 地元入所のための市の対策はどうか。

**答弁** 第一希望で入所できないのは米崎保育園だけであるが、29年度は全て入所できるよう最大限配慮したい。

## 若者の地元定着に支援を

**質問** 29年3月高校卒業者の地元就職の状況はどうか。

**答弁** 高田高校の就職希望者26人、管内就職希望者13人とうかがっている。

**質問** 転職や離職が多いが、市として相談等できないのか。

**答弁** 労働環境の充実が大切であり、引き続き事業所訪問等により啓発を行う。



元気に登園する保育園児

## 在京陸前高田人会ふるさとのつどい

第31回「ふるさとのつどい」が11月27日、東京都内で開催され、約200名が参加しました。

今回は設立30周年を記念し、戸羽太市長より在京人会の佐々木積会長へ会旗が贈呈されました。

本市議会からは議員6名が参加し、おのおの地域のテールに着き、郷土の話や復興の状況などについて参加者と懇談しました。

物産コーナーでは懐かしの味を求める姿も多くあり、また、陸前高田市内宿泊施設の招待券等が当たるゲームや、高田音頭を全員で踊るなど、和やかなつどいとなりました。



参加者とともに市民歌を歌う議員や来賓



菅野 定  
(新 風)

## 認知症対策で優しさを

**質問** 認知症サポーターの養成とその人材確保などをどう考えるか。

**答弁** 「認知症サポーター養成講座」を開催し、認知症サポーターの養成とともに、上級者の確保に取り組み、認知症の方を支援する人材を確保したいと考えている。

**質問** 認知症予防の対策と高齢者を互いに支え合う近所間などの連携はどうか。



笑顔で楽しい体操を行う認知症カフェ

**答弁** 「一本松クラブ」や「陽たまりクラブ」などを開催し、高齢者の健康づくりと介護予防の取り組みを進めている。地域での交流拠点となる「居場所づくり」にも取り組んでいる。

**質問** 高齢者などの交通環境をどう考えるか。

**答弁** 平成30年度をめぐりに、地域公共交通計画の策定を進めていきたい。

## 福祉施設などでも避難訓練を

**質問** 福祉施設等の災害避難行動マニュアル作成への対応はどうか。

**答弁** 福祉施設等と意見交換する場を設け、必要な情報提供を行うなど、作成に向けた支援を行う。

**質問** 災害に備え、市内8カ所の福祉施設等と福祉避難所としての協定を結んでいるが、対応はどうか。

**答弁** 各施設に「福祉避難所設置・運営に関するガイドライン」を配布している。また、物品の入れ替えなど適正な管理と充実に努め、避難訓練の際には、より実践に即した訓練を行いたい。



大坂 俊  
(翔 英 会)

## 財政状況の現状と今後の在り方について

**質問** 当局は、本市財政の状況をどのように捉え、何を課題としているか。

**答弁** 平成26年度までの決算額は、1千億円を超えて推移してきたが、平成27年度においては、事業に一定の進捗がよくが図られたことから、減少したと認識している。

また、公共施設の復旧整備については、一般財源による負担も生じることから、財源及び維持管理費用などの確保が課題であると考えている。

**質問** 平成29年度の予算編成方針はどうか。

**答弁** 復興事業における一部地方負担や、公共施設整備に要する一般財源の負担が見込まれ、厳しい財政状況が予想される。その中で、復興事業を着実に実施するとともに、交流人口の拡大や子育て

支援の充実、農林水産業の担い手育成など、まち・ひと・しごとの創生と好循環を確立するための事業を推進していきたい。

## 陸前高田市の防災計画について

**質問** 「地区防災計画制度」を活用してはどうか。

**答弁** 28年2月に県主催による「地区防災計画策定」に関する研修会が開催され、長部地区コミュニティ推進協議会の方々が出席し、制度の内容について理解を深めている。同協議会では、来春の策定を目指すこととし、素案につ

て作成が進められている。この制度は、地域コミュニティの共助における防災活動の推進を図る上で有益であり、円滑に活用できるように支援していきたい。

## (仮称)一本松記念館・市立博物館について

**質問** 「基本構想・基本計画」の策定業務が進められているが、この業務の目的と施設の役割は何か。

**答弁** この業務は、施設全体の基本的な考えの整理や事業計画を明確にすることを目的としている。市立博物館については、自然・歴史・文化

を学び、先人の知恵を伝えることを主な役割としている。(仮称)一本松記念館については、本市の復興の歩みを学び伝え、本市全体の交流人口の拡大、「賑わいの創出」に資する空間となる施設を目指すものである。



27年度歳入歳出決算書



福田 利喜  
(創生会)

## 応急仮設住宅の 集約撤去の課題は何か

**質問** 仮設住宅の使用状況は、アンケート等の調査結果と使用実態には、かい離がみられると思うが、学校用地に立つ仮設住宅の使用状況を調査し、早期に教育環境の整備に努めるべきと思うがどうか。

**答弁** 現在の使用状況は、集会室や目的外使用を併せ1046戸が使用されている。平成28年8月に行った最終意向調査をもとに検討を行う。

**質問** 再建などが決まらない高齢者世帯に対し、住んだことのない集合住宅である災害公営住宅に、お試しでの入居は考えられないか。

**答弁** 高齢者を対象の試用体験等は今後検討していきたい。

## 農・林・水産業の 振興策は

**質問** 農業・林業・漁業の分野では後継者不足が深刻化しているが、対応策はどうか。

**答弁** 漁業体験会の実施や、新規就農研修生の受け入れ、地域おこし協力隊の受け入れ等を実施し後継者の確保に努めている。

**質問** ふるさと納税の返礼品としても人気がある米



休日を返上して進む復興工事

崎リンゴの生産が少なくなっているが、有望作物であることから新たな団地をつくるべきではないか。

**答弁** 震災後、樹園地の面積が少なくなってきたことから、浸水した低地利用を含め、新たなリンゴ農地を増やしていく取り組みをする。

## 復興計画の 進ちよく状況は

**質問** 復興計画の進ちよく状況はどうか。遅れがあるとすれば理由は何か。

**答弁** おおむね順調に進んできているが、土地区画整理事業の一部に遅れがみられる。その要因は、国等関係機関との調整や地権者との調整に時間を要している。

**質問** 計画を進めてきて、新たに生じた問題は何か。  
**答弁** 防災集団移転事業で取得した浸水した住居宅地の活用について、地域でもワークショップを行っていたが、その活用方法が第一の課題である。

## 大船渡地域振興センターとの情報交換会

沿岸広域振興局の大船渡各センター所長等と本市議会との情報交換会が11月21日、市役所で開催されました。沿岸広域振興局副局長の菊地一彦氏より、復興の取り組み状況と平成29年度に重点的に取り組むべき項目・新たに取り組みべき項目について説明を受けた後、意見交換を行いました。

海岸保全施設・漁港施設は、一部の工事等を除き、平成30年度の完成を目指しています。また、復興道路の整備では、29年度には広田半島の道路整備箇所が完成となります。

暮らしの再建では、県整備分の災害公営住宅は29年度中に全て完成しますが、入居者が当初の予定通りでないのが課題のようです。

また、高田松原の再生計画は、29年度からアカマツなどの本格植栽を実施予定。砂浜再生では、試験施工による養浜砂投入が完了し、経過観察を行った後に本格施工に着手する予定です。

さらに、29年度には本設の県立高田病院の開院を目指しているほか、県立高田高等学校のグラウンド整備も進めています。

総じて、市内での県事業全

てが順調に進ちよくしている」と説明を受けました。

本市議会からは、伊藤議長が市議会の活動状況について説明し、その後、質疑や意見交換が行われました。

東日本大震災からの復旧・復興、産業の振興、交流人口の拡大など課題解決のため、今後さらに連携を深めることを確かめました。



大船渡各センター所長等との意見交換



義 一 佐々木  
(創 生 会)

## 大震災で学んだ

### 防災減災の智慧を

#### どう生かすか

**質問** 災害が起きた場合、民泊事業等で本市に滞在している方々の安全確保をどのように考えているか。

**答弁** 来訪者が多く訪れる「奇跡の一本松」などでは、安全な高台までの避難経路を

案内する避難看板を設置。災害発生時には、速やかに高台の避難場所まで避難できるような対策を講じている。

また、民泊受け入れ窓口の「一般社団法人マルゴト陸前高田」が、受け入れ先の家庭に対し事前に安全講習会を開催し、利用者の安全確保の徹底を図っている。

**質問** 想定を超える災害への対策は進んでいるのか。

**答弁** 最新の気象情報を入力し、气象台と綿密に連絡を取り、最悪の事態を想定した対応を取るよう努めている。台風の接近が夜間の場合には、明るいうちに避難準備情報を発表し、早めの避難を促している。

**質問** 防災行政無線線が聞こえないという市民の声に対応策はどうか。

**答弁** 今年度は、10カ所に屋外放送設備を増設。放送内容が聞き取りにくい世帯には、「戸別受信機」の貸し出し、「電話応答サービス」、

「メール配信システム」、「フェイスブック」等で防災情報を伝達している。

**質問** 防潮堤や水門の完成後の管理は、誰が行うのか。

**答弁** 県、市それぞれの設置管理者が、維持管理等も含め適切に管理を行っていく。

## 被災市街地復興土地

### 区画整理事業について

**質問** 高田地区高台6の進捗はどうか。

**答弁** 進捗率は約20%。

**質問** 計画どおりに完成できているのか。

**答弁** 移転希望者数が減少したため、計画の見直しで多少遅れることが懸念される。

## 交流人口について

**質問** 民泊事業のメリットとデメリットは何か。

**答弁** メリットは、地域間・世代間交流による地域活性化が図られたこと。デメリットは、受け入れ家庭の偏在があったことから、民泊家庭同士のつながりが薄い地域があった。

## 復興対策特別委員会

### 当局が4案を説明

## 新庁舎建設の候補地

東日本大震災により被災した市役所の新庁舎建設に向け、市当局は11月21日の全員協議会で候補地3カ所4案を示しました。市民の間でもさまざまな意見がある課題だけに、今後は議員個々に市民から考えを聞き、市当局と議論していくことを確認しました。

候補地案は、①農免道沿いにある高田町内の新たな用地（移転・新築、1万2千平方メートル）、②現市役所（現地・新築、9100平方メートル）、③その11現高田小学校（改修・増築、1万2千平方メートル）、その21現高田小学校（解体・新築、1万2千平方メートル）。

市当局は、各案についての安全性や利便性、経済性に関するメリットとデメリット、概算事業費、工事完了までのスケジュールなどを提示。用地面積については、来訪者や公用車駐車場などの確保が必要なことから、「約1万2千

平方メートル（旧庁舎敷地約6095平方メートル）が基本」と説明しました。

また、施設規模については、気軽に誰でも訪れることができ、あらゆる人にやさしく、わかりやすく、利用しやすい安全安心な庁舎とするばかりでなく、市民の交流スペースや会議室も必要ことから、「延べ床面積約6千平方メートル（旧庁舎延べ床面積約5759平方メートル）を基本」としました。

その上で、戸羽太市長は「3月には新庁舎を建設する位置を決めたい」と語りました。

市議会としては、議員個々に市民の意見を聞きながら必要に応じて復興対策特別委員会（及川修一委員長）を開き、対応していくことにしました。

市役所新庁舎建設候補地案の比較は、左記の比較表の通り。



旧タピック45から今泉地区の高台まで徒歩約18分





藤倉泰治  
(日本共産党)

## 慰霊の場所を 新市街地にも

**質問** 市長は、かねてから「犠牲となった人たちに見てもらえるようなまち」と語っていたが、改めて新しいまちづくりの考えはどうか。

**答弁** 防潮堤やかさ上げ工事等のハード対策と高台避難などのソフト対策を併せ、多重防災型のまちづくりが基本的な考えだ。  
**質問** 高田松原津波復興祈念公園だけでなく、かさ上げた新市街地が大きな被害と多くの方が犠牲となった場所であり、ここにも追悼と慰霊ができる形や場所が必要ではないか。

**答弁** 今のところ



矢作町三ノ戸地区の共同水源地

る計画はないが、中心市街地にも慰霊の場を検討したい。防災意識を高め、全国の人にも祈念公園と新しいまちを訪れていただくようにしたい。

**質問** 本丸公園、大石や川原地区の裏山への避難路の整備を進めるべきではないか。  
**答弁** 徒歩による避難が可能となるよう検討を進める。

## 災害公営住宅の 家賃軽減を

**質問** 災害公営住宅の家賃の軽減と使い分けはどうか。  
**答弁** 軽減措置は国の2つの事業と市の減免条例と併せ

て3種類ある。市の減免は、月額所得6万9千円以下の世帯が対象であり、1割から9割の間で減免基準を定めているが、入居者に有利な軽減を適用している。  
**質問** 月額所得が8万円以上の階層の軽減はどうか。  
**答弁** この階層には、国が創設した低廉化事業が補助率も高く対象期間も20年であり、この制度を活用し軽減する。

## 水道未普及地域への 支援を

**質問** 市の水道が整備されていない地域の世帯数、人口と、その実情はどうか。  
**答弁** 市全体の約1割、798世帯、1978人である。横田・矢作・米崎町にある井戸水や沢水、伏流水等を水源とし、個人または共同で

飲用水を確保している。水源の枯渇や土砂の流入等の影響があり、施設設備や日々の維持管理で苦慮している。  
**質問** その施設整備等への支援はどうか。

**答弁** 地域の方々とも協議し、新年度の新たな補助制度の創設を検討する。

市役所新庁舎建設候補地案の比較表

案	候補地 法面積等	区分	安全性		利便性		経済性
			自然災害		市街地との 連携	駐車場利用	概算事業費
1案	新たな用地 (高田町 農免道沿い) 移転・新築 12,000㎡ RC3階建	メリット	①浸水区域外に立地		—	①新たな整地により 使い勝手が良い	64億円 (うち市負担 24億円)
		デメリット	①土砂災害警戒区域に配慮 ②土砂災害への対応	①徒歩での 移動が困難	—		
2案	現市役所 現地・新築 9,100㎡ RC4階建	メリット	①浸水区域外に立地		—	—	63億円 (うち市負担 18億円)
		デメリット	—		①徒歩での 移動がやや 困難	①不整形で狭く、 使い勝手が悪い ②他駐車場の利用 が必要	
3案 (その1)	現高田小学校 改修・増築 12,000㎡ RC4階建 (ピロティ含む)	メリット	—		①徒歩での 移動が容易	①整形の既成用地 で使い勝手が良い	56億円 (うち市負担 17億円)
		デメリット	①浸水区域 ②庁舎としての耐震性の確保	①1階部分のピロティ化、 高台3等への避難経路により 対応 ②耐震補強工事により対応	—	—	
3案 (その2)	現高田小学校 解体・新築 12,000㎡ RC4階建 (ピロティ含む)	メリット	—		①徒歩での 移動が容易	①整形の既成用地 で使い勝手が良い	54億円 (うち市負担 11億円)
		デメリット	①浸水区域	①1階部分のピロティ化、 高台3等への避難経路により 対応	—	—	

# 議案の審議・結果

〈12月定例会〉

平成28年第4回定例会は、11月30日から12月13日まで行いました。開会初日は、報告2件、市道路線廃止・変更・認定、また、工事の変更請負契約締結など執行前提案8件、条例の一部改正案3件と関連の補正予算案4件を可決。そのほかの執行前提案3件、条例案5件、平成28年度補正予算案5件を予算等特別委員会（大坂俊委員長）に付託しました。その後の審議を経て、全議案を原案可決しました。総務常任委員会と教育民生常任委員会で審査の請願2件、復興対策特別委員会で審査の陳情1件は、継続審査としました。また、産業建設常任委員会発議の意見書1件を全会一致で可決しました。

## ◆平成28年度補正予算可決

即決の平成28年度的一般会計予算、国民健康保険特別会計補正予算、介護保険特別会計補正予算、水道事業会計補正予算は、初日上程の人事院勧告に基づいた議員報酬及び特別職、職員の給与に関する条例改正によるもの、また、予算等特別委員会に付託されたものは、福祉灯油支給事業費、法人立保育園児童保育実費、高田地区土地区画整理事業費、今泉地区土地区画整理事業費、図書館システム管理事業費、社会教育施設災害復旧事業費などです。

## ◆変更業務委託契約締結など可決

漁港災害復旧工事の変更請負契約締結は、三鏡・根岬で作業員確保のための宿泊費増（1914万円）、大陽（7184万円）・両替（1億3638万円）の防潮堤で工事変更による契約金増額としました。また、被災市街地復興整備事業の変更業務委託契約締結では、高田地区消防水利整備事業の追加と高田地区街路事業の変更により、1293億4235万円から1300億6475万円増額しました。

## 提出議案及び審議結果（平成28年第4回定例会）

報告第1号	大陽・矢の浦漁港災害復旧工事の変更請負契約に関する専決処分報告について	報告	議案第14号	陸前高田市特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
報告第2号	損害賠償の額を定め和解することに関する専決処分報告について	〃	議案第15号	陸前高田市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	〃
議案第1号	市道路線の廃止について	原案可決	議案第16号	陸前高田市市税条例の一部を改正する条例	〃
議案第2号	市道路線の変更について	〃	議案第17号	陸前高田市国民健康保険税条例の一部を改正する条例	〃
議案第3号	市道路線の認定について	〃	議案第18号	陸前高田市立小学校設置、管理に関する条例の一部を改正する条例	〃
議案第4号	公有水面の埋立てに関する意見について	〃	議案第19号	陸前高田市立中学校設置、管理に関する条例の一部を改正する条例	〃
議案第5号	三鏡・根岬漁港災害復旧工事の変更請負契約締結について	〃	議案第20号	平成28年度陸前高田市一般会計補正予算（第5号）	〃
議案第6号	大陽漁港海岸災害復旧（防潮堤）工事の変更請負契約締結について	〃	議案第21号	平成28年度陸前高田市一般会計補正予算（第6号）	〃
議案第7号	両替漁港海岸災害復旧（防潮堤）その1工事の変更請負契約締結について	〃	議案第22号	平成28年度陸前高田市下水道事業特別会計補正予算（第3号）	〃
議案第8号	両替漁港海岸災害復旧（防潮堤）その2工事の変更請負契約締結について	〃	議案第23号	平成28年度陸前高田市国民健康保険特別会計補正予算（第3号）	〃
議案第9号	陸前高田市被災市街地復興整備事業の変更業務委託契約締結について	〃	議案第24号	平成28年度陸前高田市国民健康保険特別会計補正予算（第4号）	〃
議案第10号	財産の取得について	〃	議案第25号	平成28年度陸前高田市介護保険特別会計補正予算（第3号）	〃
議案第11号	財産の取得について	〃	議案第26号	平成28年度陸前高田市介護保険特別会計補正予算（第4号）	〃
議案第12号	陸前高田市コミュニティセンター条例及び陸前高田市公民館条例の一部を改正する条例	〃	議案第27号	平成28年度陸前高田市水道事業会計補正予算（第2号）	〃
議案第13号	陸前高田市議会議員の議員報酬等に関する条例の一部を改正する条例	〃	議案第28号	平成28年度陸前高田市水道事業会計補正予算（第3号）	〃

**【請願審査】**

請願第7号と請願第8号は、継続審査としました。

請 願	請 願 者	請 願 の 趣 旨	採 択 ・ 不 採 択 等
【請願第7号】 陸前高田市被災市街地復興土地区画整理事業のかさ上げ地の浸水想定について	陸前高田市高田町字下和野7番地11 村上 毅彦	被災市街地復興土地区画整理事業のかさ上げ地の浸水想定について、市当局から市民へ周知すること、また、周知内容の妥当性の確認を求めます。	継続審査
【請願第8号】 年金改悪の中止を求めることについて	陸前高田市米崎町字松峰59番地108 全日本年金者組合 陸前高田支部 執行委員長 石山 仁雄	年金制度改革関連法案の廃案と、年金積立金の運用に関する意見書を国会および行政関係省庁に提出するよう求めます。	継続審査

**【陳 情】**

陳情第1号は、継続審査としました。

陳 情	陳 情 者	陳 情 の 趣 旨	採 択 ・ 不 採 択 等
【陳情第1号】 「市役所新庁舎位置の選定について」市当局による市民説明会の開催について	陸前高田市高田町字下和野7番地11 村上 毅彦 陸前高田市竹駒町字上壺55番地 3-2号 菊池 純一 陸前高田市米崎町字川内1番地 米崎小学校仮設住宅4-6号 佐藤 一男 陸前高田市小友町字腰廻67番地 戸羽 初枝 陸前高田市高田町字鳴石51番地91 武蔵野 美和	市役所新庁舎位置の選定について、市当局による市民説明会を開催するように、市議会より市当局へ要請することを求めます。	継続審査

**【発 議】**

発議第6号は産業建設常任委員会から提案され、12月13日、全会一致で可決しました。

発 議	発 議 の 理 由 等	結 果
【発議第6号】 農協改革に関する意見書の提出について	国においては農業改革に当たって、農協の自己改革を尊重し、農業の振興と組合員の利益に資することを基本として、慎重かつ十分な審議を行うよう強く求めるもの。	原案可決

**【市政調査会】**

**遠野市の後方支援を視察**

12月19日、市政調査会（藤倉泰治会長）は遠野市を訪れ、平成27年3月にオープンした「後方支援資料館」を見学。東日本大震災災害対策本部の当時の記録模造紙も展示され、「3月15日陸前高田市議会議長等来庁14時30分」の記入もありました。

本田敏秋遠野市長が約1時間講話。「津波を想定し、当時の中里市長にも賛同いただき、平成19年に後方支援の構想を提案した」「震災当日の午後5時40分には運動公園に全国の救援部隊を受け入れる態勢をとった」と広域防災の重要性と実際の苦闘についての説明を受けました。

全国の先進地として取り組んだ遠野市の後方支援活動を深く学ぶことができて、参加者一同、改めて遠野市の奮闘に感謝し、研修を終えま



遠野市長の講話

# 議会と語る会を開催

議会基本条例に基づく議会報告会を10月27日から11月17日までのうち、7日間にわたり市内8カ所で開催しました。17議員が居住地域をはじめ3カ所を訪問。延べ172人の参加市民からさまざまな地域課題をうかがったほか、解決に向けた意見をいただきました。会場ごとの意見や提言を紹介いたします。

## 【高田会場】

- ・ 従来からある地名は、大切と考える。被害を伝承するうえで、地名を残していくことを考えてほしい。
- ・ 高台2では、また仮換地の状態なので建築申請や書類の手続きが煩雑なことから、柔軟に対応ができないか。
- ・ 新たなコミュニケーション形成に市がもっと先導的な役割を果



コミュニティホール

たしてほしい。

- ・ 高台移転の事前自治会をつくり、ごみステーションなどのことについて話し合う場を設けて欲しい。
- ・ 台風10号の時も、防災行政無線が聞こえなかったため、対応を考えてほしい。

### 〈所感〉

従来の対面方式ではなく、最初の説明の後にグループに分かれての意見交換の形式を初めてとった。参加者からの発言が多く出され、発言しやすいと好評だった。

## 【矢作会場】

- ・ 水道未給水地域に対しての支援対策を考えてほしい。
- ・ 県道矢作住田線について、すれ違いが出来るよう部分的にでも改良してもらいたい。
- ・ 二又診療所の駐車場が足りない。医師用住宅を使わない

のなら撤去して駐車場に。  
 ・ 笹ノ田トンネルの早期開通について、一関に負けないように働きかけていくべき。  
 ・ 陸前矢作駅周辺では道路が低く雨で水浸しになる。また、愛宕下地区の市道は雨のたびに流される。何度も要望しているが早く整備を進めてほしい。

・ 坂下地内の崩れたところはいつどうなるのか。

### 〈所感〉

町内3地区合同開催であり、それぞれに課題はあるが、矢作町全体の課題とも大きく関連わりがあったと感じた。また、地域課題のみならず市全体に關しての意見・感想をいただき、活発な報告会であった。

## 【気仙会場】

- ・ 津波避難訓練を実施しているが、防災無線が聞こえない。携帯電話を持っていない方々、特に高齢者にも的確に情報を伝達する手段を検討すべき。
- ・ 三陸沿岸道路からの雨水排水対策をさらに検討し、対応してほしい。
- ・ 人口減少について、働く場の確保、学校など学べる場を設けるなど具体的な施策を展開していくべき。

・ 民泊は市の事業だと思っていたが、主体となっているNPOの準備不足は否めない。民泊については課題と問題が出てきている。  
 ・ 区画整理事業で緑地帯になる計画が縮小された土地で繁茂の雑木に倒壊の恐れがある。

### 〈所感〉

地域課題の情報収集について、さらなる工夫と努力の必要性。また、食文化条例について、重要なのは条例を施策にどうつなげていくかということだと感じた。

## 【竹駒会場】

- ・ 現在のJR竹駒駅について、駅前広場が狭くなっていることや町内の中心地が変わっていることから、少し東側に移



竹駒コミセン

設を。

- ・ 被災した世界大遺跡玉山霊域塔の復旧・修復への支援を。
- ・ JRの鉄道の利用やBRTバスの今後の見通しを示してほしい。
- ・ 岩手県の気仙川改修工事に関わって、堤防の10センチかさ上げや2メートル拡幅の計画について周知を。

・ 竹駒地区の小中学生について、スクールバス運行がなくなった場合の通学路の安全確保を。

- ・ 本市の今後について、働く場の確保や市民所得向上、地域産業の振興と市財政の見通しはどうか。

### 〈所感〉

震災によって竹駒地区の様子が大きく変化しているだけに、今後のまちづくりや市政、市議会への強い要望など、厳しい意見もあったが、地域住民の声をよく聞き、市民と一緒に取り組む重要性を感じた。不安の声が多く寄せられ、行政側の計画や情報について常に地域に伝える方策も課題として感じた。

## 【小友会場】

- ・ 市役所建設について、どのようなまちづくりにしよう

しているのか先が見えないので、結論を急いでほしい。市役所の位置については、市民からも意見を吸い上げてほしい。市役所が避難所であったため、多くの命を失った。今いる市職員の命を守るための市役所をつくってほしい。

・防災無線について、復興が進み、気密住宅が多くなってきたので、防災無線が聞こえない状態なので、この問題に対処してほしい。

・本市の「食文化条例」について、学校給食など消費数を把握した上で消費数値目標を設定して意識を高めていったらどうか。地元の食材について納入業者と給食センターの栄養士と話し合う機会を設けてほしい。地場産品で自然のもの、食文化を途絶えさせないようにしたい。

### 〈所感〉

市全体の課題等について話してきたが、小友地区の課題等と話した方もいたようだ。十分に話が聞けなかったことが反省点だった。

### 【米崎会場】

・米崎小学校から新しい団地への通学路に歩道を設置してほしい。また、高田東中学校



米崎コミセン

校舎が完成するとアップロードが通学路になるので、防犯灯を設置してほしい。

・平成29年に介護保険料が値上げされると聞くが、どのような見通しか。

・米崎町民なのに米崎保育園に入れない。建設段階で地元民がお金を出し合って建設したのに、その家庭の子どもが入れないのはおかしい。

・市の花は「椿」だが、椿を活用した施策がない。何らかに活用すべき。

### 〈所感〉

今後の安全なまちづくりや地域活性化策など、積極的な意見が出され、地区民の熱意が伝わってきた。議員発議で制定した食文化条例に関する意見もあったが、その内容を理解してもらうためのPRの

必要性を感じた。

### 【横田会場】

・横田小学校校舎利用について、進ちよく状況の説明と意見交換の場を設けてほしい。

・本市の財政は将来的にも維持できる適正規模なのか。

・納税者の立場を尊重した財政運営をしてほしい。一律に措置するものと、そうすべきではないものとを線引きする必要がある。

・新たな市役所は高台にすぎ。場所について、市民との意見交換の場を設けてほしい。

・豪雨の被害が深刻な大堰の治水対策を加速させるために何ができるのか示してほしい。

・横田保育園の老朽化について議会に請願採択されているが、進ちよくを知らせてほしい。

・未給水地域について、どのように把握しているのか。

### 〈所感〉

地域課題について、行政執行権を持つ市長に伝えることは大事であるが、議会としてできることも多くあることを自覚すべきと考えた。

### 【広田会場】

・広田診療所に医師が不在と

なることは大変な問題である。二度とこのようなことのないよう、地域医療の在り方を考え、医師確保に努めてほしい。併せて、広田診療所の診療体制の充実に努めてほしい。

・新市役所の位置について、職員が犠牲になることや、情報が途絶えることが絶対に起きない場所を検討してほしい。

・黒崎の展望台の修復について、「初日の出」を見に来る方も多くいるので遊歩道も併せて早急に整備をお願いしたい。

・中高生が登下校で歩いてい

るが、外灯が少ないなど大変見づらく危険である。ソフト面として反射鏡を配布するなど、子どもたちの安全を守るためにできることを行ってほしい。

・オンデマンド交通を行っているようだが、認知度が低いと感じる。今後なお必要になる取り組みだと思うので、市に根付いた施策にしてほしい。

### 〈所感〉

最大の市政課題のひとつである医療体制の確保について、多くのご意見が寄せられた。広田診療所の医師確保に議会としても尽力していきたいと思った。

## 会場で出された 意見を市長に

議会と語る会で寄せられた市民からの意見や提言は、議会広聴広報特別委員会（及川修一委員長）がとりまとめ、12月13日に伊藤明彦議長が戸羽太市長に「今後の市政運営に反映してほしい」と、書面を手渡しして申し入れました。



市長への申し入れ

10月～12月

議会のうごき

平成28年10月以降の議会の主な活動状況を次のとおりお知らせします。

< 10月 >

- 12日 全員協議会／議会運営委員会／議会広聴広報特別委員会理事会／広報小委員会
- 18日 全員協議会／市政調査会理事会
- 25日 議会広聴広報特別委員会／議員研修会
- 27日 議会と語る会（高田町）

< 11月 >

- 2日 広報小委員会
- 7日 議会と語る会（矢作町）
- 8日 議会と語る会（気仙町）
- 10日 議会と語る会（竹駒町・小友町）
- 14日 議会と語る会（米崎町）
- 15日 会派代表者会／議会と語る会（横田町）
- 17日 議会と語る会（広田町）
- 18日 広報小委員会
- 21日 全員協議会／復興対策特別委員会理事会／県沿岸広域振興局大船渡各センター所長等との情報交換会
- 25日 議会運営委員会
- 30日 第4回定例会（～12月13日）／全員協議会／復興対策特別委員会／総務常任委員会／教育民生常任委員会／産業建設常任委員会／広報小委員会／I C T小委員会

< 12月 >

- 5日 会派代表者会
- 6日 市政調査会理事会
- 7日 予算等特別委員会／広報小委員会
- 8日 復興対策特別委員会／総務常任委員会／教育民生常任委員会／産業建設常任委員会
- 9日 復興対策特別委員会／広聴小委員会
- 13日 全員協議会／議会広聴広報特別委員会／広報小委員会
- 19日 市政調査会視察（遠野市）
- 26日 広報小委員会

平成29年1月18日第99号発行／陸前高田市議会（岩手県陸前高田市高田町字鳴石42の5） ☎0192（54）2111 印刷／第1印刷



気仙町に貫通したトンネル



工事が進む三陸沿岸道路

平成30年度の開通予定まであと2年。「三陸沿岸道路」の形が徐々に見えてきました。気仙川に架かる橋はコンクリート工事が終盤。その先の気仙町に貫通したトンネルは、トンネル入り口付近の土工事仕上げ段階です。

復興のうごき

この3月で大きな構造物は、ほぼ完成となります。今後は、橋の上やトンネルの中の舗装工事が始まっています。

議会だより クイズ

○の中に入る数字は？ 次回の議会だよりは第000号

〈応募方法〉クイズの答え、住所、氏名、年齢を記入の上、ハガキで応募ください。また、議会だよりを読んだ感想、市議会への意見・要望などを必ず記入してください。正解者の中から抽選で5人に粗品をお贈りします（当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます）。※いただいた意見・要望などは次回の議会だよりに掲載することがあります（住所、氏名は掲載しません）。

〈あて先〉〒029-2292 陸前高田市高田町字鳴石42-5 陸前高田市議会事務局 宛  
〈しめきり〉平成29年2月15日（当日消印有効）

議会の傍聴しませんか？

次の定例会は2月下旬に開会予定です。

また、災害FM（80.5MHz）やインターネットラジオで、本会議・特別委員会を放送しています。

委員	小委員長	副委員長	委員	委員	委員	委員	委員
菅野	菅野	菅野	菅野	菅野	菅野	菅野	菅野
定純	徳子	昌也	恵美子	貴徳	野勢	中野	伊勢

編集委員

陸前高田市議会 議員一同

あけましておめでとう  
ごきげんよう  
公職選挙法により、年賀状などを出すことはできませんのでご理解願います。

あしがき

輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

99回目の発行となりました。今回の市議会だよりの表紙には、本市の平成29年成人式の様子を掲載させていただきました。12月定例会での一般質問には、10人が登壇し、市役所新庁舎建設の位置、国保広田診療所、観光行政、公共交通、認知症対策、雇用対策、財政状況など幅広い議論が交わされました。

また、議長の新年のあいさつ、在京人会、復興センターとの情報交換会、復興対策特別委員会、議案の審議・結果、請願等発議、市政調査会の行政視察、議会と語る会の内容、復興のうごきなどを掲載させていただきます。

次回の第100号記念号発行に向けて鋭意検討をしております。

